

日本音楽教育学会・美術科教育学会 共催

シンポジウム「芸術教育の未来」

このたび日本音楽教育学会と美術科教育学会が中心となり、芸術教育が人の生涯にわたってもつ意義を考え、その重要性を発信することをめざして、シンポジウム「芸術教育の未来」を企画いたしました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

シンポジウムの目的

社会の急速な変化を背景に、子どもたちに求められる資質・能力については社会的にも大きな関心を呼び、その資質・能力を育む学校教育の役割をめぐる議論はいっそうの重要性をおびています。知識・情報・技術をめぐる加速度的変化、とりわけ人工知能の進化が人間社会を大きく変える可能性が示唆されることで、子どもたちの学び方にも大きな変化がもたらされつつありますが、その一方で、人間と人間とが構成する社会にとって真に必要なものは何かについての議論は、いまだ尽くされていないのではないのでしょうか。人類が長い歴史の道のりにおいて芸術という営みを持ち続けてきたことについて、その本質に迫る議論は十分に進んでいません。豊かな感性や人間性といった抽象的概念が先行し、芸術教育の意義についての学術的議論は遅れをとっているのではないのでしょうか。

本シンポジウムは、造形と音楽の実践に触れながら、そこに生起する子どもたちの学び、人の学びを受け止め、理論的に検討し、芸術教育の意義を共有し、発信することを目的とします。

[日時] 2019年3月2日(土曜日) 10時30分～17時30分

[場所] 聖心女子大学(渋谷区広尾)「マリアンホール」(定員400名)

※聖心女子大学へのアクセスは大学ホームページをご覧ください。

[プログラム]

【第1部】

10:30～11:00 文化庁長官 宮田亮平氏 挨拶 / 長官との対話 司会:佐野靖氏(東京藝術大学)

11:10～12:20 美術教育を考える 「造形活動を通して子どもたちに育つもの考える」

目黒区立五本木小学校 3年生の子どもたちと鈴木陽子教諭

【第2部】

13:20～14:20 基調講演 「芸術と創造性の科学:心のバリアフリー教育は可能か?」

西川伸一氏(京都大学名誉教授)

14:30～15:40 音楽授業を考える 「大学生参加による模擬授業を通して」

江田 司氏(名古屋学院大学)

15:40～16:10 コメンテーターによる意見

益川弘如氏(聖心女子大学)

16:20～17:30 シンポジウム「芸術教育が育むものとは」

18:00～ 情報交換会(学生食堂にて)

[参加申し込みについて]

参加費は無料です。どなたでも参加できますが、事前申し込みが必要です。

右記URLにアクセスしてお申し込みください。定員になり次第締め切ります。



<https://goo.gl/forms/COaZXN8YkRYbmgNX2>

終了後、情報交換会がございます。

会場:学生食堂 参加費4000円、当日会場にて頂戴します。

こちらへのご参加もお待ちしております。